

# 卒業生座談会

# 医系



自分に合った先生が見つけれられるSEG



かわむら まを  
川村 真緒さん  
東京医科歯科大学医学部1年  
(桜蔭卒)



みはら さくらこ  
三原 桜子さん  
順天堂大学医学部1年  
(立教女学院卒)



まるやま もえ  
丸山 萌さん  
日本医科大学医学部1年  
(田園調布雙葉卒)

〔司会〕古川 昭夫 (SEG代表)

---

---

## 楽しく学べて自主性も育ち 友人が得意やすいSEG

---

**古川** まずは、自己紹介を兼ねて、SEGに入った時期と入塾のきっかけを教えてください。

**川村** 桜蔭高校出身で、東京医科歯科大学医学部医学科1年の川村真緒です。SEGに入ったのは中2の夏で、きっかけは父が通っていたからです。

**三原** 順天堂大学医学部1年の三原桜子です。立教女学院高校出身です。SEGに入ったのは中2の冬です。それまでは父に数学を教わっていたのですが、父がそろそろ教えられなくなってきたというので、SEGを紹介してもらったことがきっかけです。初めて習った井上先生のインパクトに驚いたことと、その授業についていくのに必死だったことをよく覚えています。

**丸山** 田園調布雙葉高校出身で日本医科大学医学部1年の丸山萌です。SEGには高1の秋から通っています。入塾したきっかけは、川村さんと同じように、父とおじが中高6年間SEGにずっと通っていたことが大きいと思います。そのため、自分が医系に進むと決めたときには、もうSEGしかないという感じでした。

**古川** 授業について印象に残っていることはありますか。

**川村** 特定の先生というわけではないのですが、塾に対して抱いていた、たくさん宿題を出されるものだという印象が良い意味で裏切られたことです。自主的に自分のやりたい勉強ができるということが、勉強を進めるうえでのモチベーションになりましたし、一種の驚きでもありました。

**三原** 塾は厳しくてつまらないところだと思って入ったのですが、いざ授業を受けてみると、学校の授業と違って、先生が叫んだり(笑)、黒板を叩いたり(笑)、とても楽しいものでした。数学についてもいつの間にか楽しく学べていて、それがとてもありがたかったです。

**丸山** 幼稚園からずっと附属校で、塾通いを経験したことがなかったため、初めて教室に入った瞬間や自習室に行ったときは、周りのレベルの高さや雰囲気によって圧倒されてしまいました。しかし、そのレベルの高さが自分の勉強するモチベーションになったのは確かだと思います。

**古川** 合格できたこととは別に、SEGに通っていて良かったということがあったら、教えてください。

**川村** 友人がたくさんいたため、負けたくないというか、切磋琢磨するというか、高め合える仲間がいたことが一番良かったと思います。

**古川** その仲間というのは、同じ高校の人ですか。

**川村** 高校の人もそうでない人も含めた友人です。

**三原** 大学附属の高校ですから、塾に来なければ勉強に対するモチベーションは上がらなかったと思います。自分を勉強する気にさせてくれ、もっとできるようにならなきゃと思わせてくれたことが良かったと思えることの一つで、もう一つは友人がたくさんできたことです。

**古川** 友人がたくさんできたのはいつ頃からですか。

**三原** 毎年コツコツ増えていった感じです(笑)。

**丸山** 私はクラス分け試験が良かったです。まったく試験慣れしていなかったこともあり、レベルアップできる時も試験を受けましたし、レベルアップに関係ないときでも試験を受け続けました。毎回受験のような雰囲気というか、もはや受験よりも緊張するような空気感を定期的に味わえて本当に良かったと思います。クラス分け試験に向けての勉強はとても大変でしたし、テストが難しいこともあって、



そわそわしながら結果発表の朝を迎え、発表時間ピツタリに確認したりしていました。おかげで、精神的にもかなり鍛えられたのかなと思います。また、2人と同じように友人もたくさんできました。

**古川** SEGは友人が得意やすい塾なのですね。

## 医師の働く姿に直接触れて 医師を目指すようになった

**古川** みなさんが、医学部に進学しようと思ったのはいつ頃ですか。また、大学を決めたのはいつ頃ですか。

**川村** 医学部に行こうと思ったのは小学生のときで、中学でSEGに入ったときには、医学部に行くために入りました。志望大学は、高2の夏にいろいろな大学のキャンパス

を回って最終的に決定しました。

**古川** 小学生のときに医学部を志望したという話ですが、何がきっかけだったのですか。

**川村** 親戚がみんな医師だということもありますが(笑)、個人的には、母が医師だったことが一番大きかったと思っています。同じ女性でありながら医師として働いており、一番尊敬できる存在だったからです。

**三原** 私も医学部を考え始めたのは小学5年くらいのときでした。フィギュアスケートを習っていて、足を15針縫うような大怪我をしたことがあり、そのときの医師に感銘を受けたことが大きな志望理由になっています。当初は国公立志望でしたが、最終的に順天堂を受けると決めたのは高3の12月くらいでした。

**丸山** 医学部を受けようと思ったのは遅くて、高1の秋の進路選択のときです。4歳からクラシックバレエを習い始

## 受験までの私の勉強法 川村 真緒さん

東京医科歯科大学医学部 1年(桜蔭卒)

- 質問項目**
- ① 繰り返し使っていたテキスト・問題集とその活用方法は？
  - ② 過去問はいつ頃から何年分くらい解いた？
  - ③ 共通テスト対策としてしたことは？
  - ④ 学力が伸びたと手応えのあった時期とその勉強方法は？

科目	得意度指数	学習方法
数学	★★	<ol style="list-style-type: none"> <li>① クリーム本と青本(何周もして書き方や考え方を覚える)、テストゼミ(解き直して苦手な部分をピックアップ)、自習編と「1対1対応の演習」(苦手な部分の問題演習)。</li> <li>② 共通テスト後から7年分。</li> <li>③ 直前に過去問1~2年分と予想問題を解く(データの分析だけ多めに)。</li> <li>④ 9月初めにひたすらクリーム本を回したこと。</li> </ol>
英語	★★★★	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 『鉄壁』(とにかく何周もする)。</li> <li>② 秋頃から10年分。</li> <li>③ 直前に予習問題2回分程度(リスニングは10回以上)。</li> <li>④ 高1、高2でひたすら長文を読み続けたこと、3年間を通して電車で単語を詰め込んだこと。</li> </ol>
物理	★★★★	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 『名問の森』(穴を潰す)、高3の1学期の問題集とテストゼミ(解き直し)。</li> <li>② 共通テスト後から約5年分。</li> <li>③ 予想問題約10回分を解いて知識の抜けている部分を探した。</li> <li>④ 秋頃から『名問の森』を1周して抜けている部分を探してSEGのテキストに戻って勉強していたこと。</li> </ol>
化学	★★★	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 高3前半の理論の問題集、テストゼミ(ノートを読んで解き直す)、チェックシート(知識の穴を探す)。</li> <li>② 共通テスト後から約5年分。</li> <li>③ 予想問題約10回分。</li> <li>④ テストゼミを復習し、抜けていた知識をノートにまとめたこと。</li> </ol>
国語	★	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 『古文単語330』、『漢文ヤマのヤマ』(電車でひたすら読む)。</li> <li>② 過去問と予想問題合わせて10~15年分。</li> <li>③ 過去問を解く、複数の参考書の解説を読む、復習、解き直しを12月後半に繰り返したこと。</li> </ol>
地歴公民 選択(倫政)	★★★	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 『倫理の点数が面白いほどとれる本』、同シリーズ『政治経済』(読んで青ペンを入れて赤シートで隠して暗記)、『大学入学共通テストへの道 倫理』、同シリーズ『政治経済』(高校の授業にあわせて解いて復習)。</li> <li>② 過去問と予想問題合わせて10年分程度。</li> <li>③ 『点数が面白いほどとれる本』シリーズを1年かけてひたすら頭に入れたこと。</li> </ol>

※表中に出てくる「青本」「クリーム本」は数学のテキスト、「自習編」は数学の副教材です。

め、ずっとバレエ漬けの生活を送りながらバレリーナを目指していました。しかし、進路選択の時期になって自分の将来について考える機会が増えたことで、幼い頃から医師として働く父の姿を見ていて憧れていた気持ちに気づき、自分もそうなりたいと思うようになりました。それまでバレエに打ち込んできたのと同じように、大人になっても何か一つのことに打ち込んでみたいと、医師を目指すことにしました。

**古川** 確かに何かに打ち込んだ経験がある人は、別の進

路を目指しても強いのだらうと思います。

## 暗記量で理科の科目選択を決め 出題に応じて2次試験対策

**古川** 医学部入試の場合は、理科の選択科目を何にするかという問題があり、私立の場合は2次試験で面接や小論文の対策も準備する必要があります。そのあたりをどの

### 受験までの私の勉強法 三原 桜子さん

順天堂大学医学部 1年 (立教女学院卒)

質問項目

- ① 繰り返し使っていたテキスト・問題集とその活用方法は？
- ② 過去問はいつ頃から何年分くらい解いた？
- ③ 共通テスト対策としてしたことは？
- ④ SEGの授業の予習・復習の仕方は？
- ⑤ 学力が伸びたと手応えがあった時期とその勉強方法は？

科目	得意度指数	学習方法
数学	★	<ol style="list-style-type: none"> <li>① SEGのクリーム本・テストゼミの問題・『Focus Gold』……クリーム本はできるようになるまで何度も(5回くらい)解き直して、その問題のポイントを問題の下にメモしていた。</li> <li>② 共通テストが終わってから10年分程度。</li> <li>③ 時間内に正確に解けるようにするため、『共通テスト必勝マニュアル』をやり、駿台文庫の『短期攻略』で問題を速く解く練習をして、センターの過去問(10年程度)、共通テストの予想問題(7セット程度)に取り組んだ。</li> <li>④ 授業で扱う問題を時間を決めてあらかじめ考えておき、復習としてその問題を完全にできるようにした。</li> <li>⑤ 高3の秋……すぐに解答を見てしまう癖をやめて今まで解いたことのある問題の考え方を利用することに重点をおいた。</li> </ol>
英語	★★★★★	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 他塾のプリント……分からないことがあったときに辞書のように使っていた。</li> <li>② 共通テストが終わってから5年分程度。</li> <li>③ 問題傾向に慣れる程度に予想問題を解いた。</li> <li>⑤ 高2の冬……とにかく文法を詰め込み、大量に文章を読んだ。</li> </ol>
物理	★★★	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 前期のテキスト・テストゼミの問題・『名問の森』……自分で参考書のような分かりやすい解答を作り(使った公式を明記するなど)、それを何度も見返した。</li> <li>② 共通テストが終わってから7年分程度。</li> <li>③ センター試験の過去問(5年分程度)で傾向を掴んだ後、共通テスト独特の問題が出題されるので、それに対応できるように駿台文庫の『短期攻略』と共通テストの予想問題(7セット程度)を解いた。</li> <li>④ 予習はあまりしておらず、授業で扱った問題を完全にできるようになるまで復習した。</li> <li>⑤ 高3の前期……授業で公式の導き方などを学ぶことができ、より物理の問題に取り組みやすくなった。</li> </ol>
化学	★★★	<ol style="list-style-type: none"> <li>① テストゼミの問題……できるようになるまで何回も解いて、その問題の重要なポイントをメモしていた。無機や高分子の知識もテストゼミを通して定着させた。</li> <li>② 共通テストが終わってから7年分程度。</li> <li>④ 予習としてその授業の範囲のプリントを読み、復習として授業で扱った問題を解き直していた。</li> <li>⑤ 高3の前期……SEGの授業で根本の考え方を身につけることができ、化学が好きになれたので問題を多く解いた。</li> </ol>
国語	★★★	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 『読んで覚える重要古文単語315』『漢文早覚え即答法』……時間がある時にこまめに覚えるようにしていた。共通テスト直前は時間を割いて、抜けている知識を定着させた。</li> <li>② していない。</li> <li>③ 駿台文庫の『短期攻略』を現代文、古文、漢文ともに取り組み、大まかな解き方を身につけた後、センター試験の過去問(7年分程度)や共通テストの予想問題(7セット程度)で時間配分の練習をした。</li> <li>⑤ 高3の12月……とにかく量をこなして、それぞれの問題に時間をかけ丁寧に取り組んだ。</li> </ol>
地歴公民 選択 (倫政)	★★★	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 『地理Bの点数が面白いほどとれる本』……時間がある時に何度も読み返し、大事なところにマーカーを引いていた。</li> <li>② していない。</li> <li>③ センター試験の過去問を10年分程度解き、問題を通して抜けている知識を確認し、定着させた。</li> <li>⑤ 高3の12月……時間がある時に知識や考え方の確認をして、解ける問題を増やしていった。</li> </ol>



ようにしたのか教えてもらえますか。

**川村** 純粹に暗記が苦手だったため、生物は選択できないと思っていました。一方で、数学が好きだったため、物理もできるのではないかと思い、高2の段階で物理、化学に決め、SEGでも物理と化学の受講を始めました。

**古川** 私立を併願したのであれば、面接や小論文の対策についても教えてください。

**川村** 面接については、医学部の面接攻略本のようなものを1冊買ってきて、受験の前日か前々日くらいにその大学の分を読んだくらいです。小論文については、ほとんど対策をしていなくて、過去問を数年分見たくらいです。

**古川** 順天堂の場合は、絵を見て小論文を書くといったような2次試験が課されますが、三原さんはいかがでしたか。

**三原** 私も物理選択です。物理を選んだ理由は、SEGにいと、自然と物理を選択するルールに乗ってしまう感じがあるからです(笑)。高2から物理を受講しようという雰囲気があり、それに流された感じです。面接対策については、高3の冬休みにYMSの冬期講習に通い、順天堂の1次試験に合格してから、YMSの2次対策講座を受講しました。

**古川** 2次対策は具体的にどんなことをするのですか。

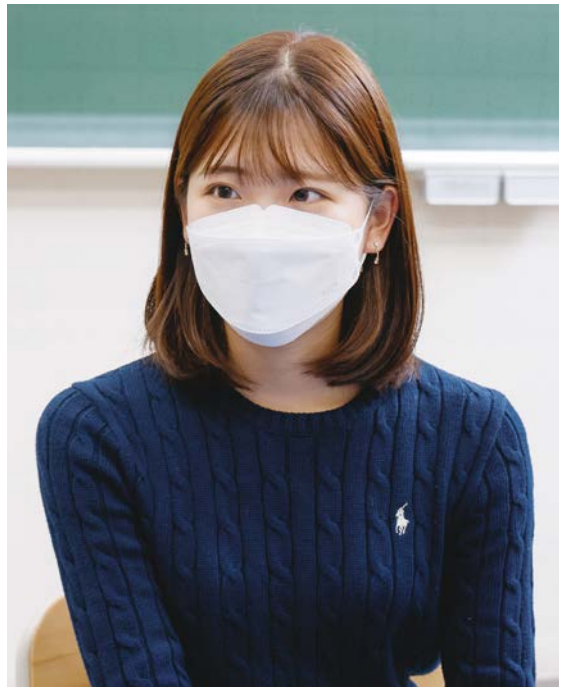
**三原** 順天堂は面接が独特で、持ち込みがOKです。そのノウハウを知っている方に何を持ち込めばいいのかアドバイスをいただいたり、基本的な面接の練習をしたりしました。また、順天堂に合格した先輩の話聞き、順天堂に行きたい気持ちを高めるようにもしました。小論文については、ほぼ何も対策をしておらず、順天堂に関しては数年分の絵を見て、解答例を読んだくらいです。

**古川** 解答例を読んでもよく分かりませんからね(笑)。矛盾さえしていなければいいのではないとも言われていますが……。面接のときに小論文のことを聞かれましたか。

**三原** 自分が書いた小論文の文章を読み上げられて、「これはどういうことを書きたかったの」といったような質問をされました。

**古川** そこでちゃんと答えられれば、特に問題はないのでしょうか。

**丸山** 私は化学、生物選択です。最初はSEG生の「物



理選択ルール」に乗りかけたのですが(笑)、もともと医系に決めたのが遅く、歴史などのテストに力を入れることが多かったこともあり、暗記科目の方に自信があるような気がしていました。それなら生物の方が点数を取れるのではないかと思い、生物にしました。面接対策は、7月頃にSEGとYMSが合同で行っている、20名くらいしか参加できない講習に申し込みました。そのときに、いろいろなタイプの面接の練習をしていただけたため、ある程度、感覚を掴んだつもりになっていました。実際、後から返ってきた講評も意外と良い評価で、「きっと大丈夫なのではないか」と勝手に思い始め、それ以降は自分の意見をまとめておく程度の対策しかしませんでした。小論文については、特に何もしませんでした。

**古川** 医科歯科も面接がありますね。どのようなことを聞かれたのですか。

**川村** 医科歯科はほとんど基本事項の質問だけですから、5分くらいで終わります。なぜ医師を目指したのか、なぜ医科歯科を選んだのかを聞かれた程度でした。

**古川** それは一応面接をやっていますというポーズで、現役生の場合はあまり合否に関係ないのでしょうか(笑)。



---

## 学校行事はしっかり楽しみ 医学部受験対策はSEGで

---

**古川** 中高の学校生活と医学部受験のための勉強との両立はいかがでしたか。

**川村** 部活は料理部に入っていましたが、高2の秋ではほとんどの活動が終わり、実質的に引退みたいな感じだったため、部活はぜんぜん受験勉強には影響しませんでした。ただし、その直前までは部活に全力投球で、正直言ってSEGの復習を後回しにしていた部分はかなりあります。文化祭に向けて模擬店を出す準備に精一杯取り組み、9月の1ヶ月間と文化祭の期間は、本当に部活のことばかり考えていました。そんな中でもSEGには欠かさず通い、授業をちゃんと受けて、ノートを蓄積していたため、10月からそのノートで遅れた分を取り戻す形にしました。楽しむことと勉強の切り替えを頑張ったという感じです。

**三原** 高1の最後までフェンシングをやっていたのですが、受験勉強しなきゃということで、高1で辞めることにしました。2つのことを同時にはできない人間だと思っていたため、その時点で勉強にシフトしました。大学附属ということもあって、高3になると学校のほとんどの人たちは毎日遊んでいるような環境でしたから、そんな中で自分だけが勉強しなければいけないというのは、やはり苦痛でした。

**古川** ちなみに立教の附属からは、どれくらいの人が外部

の大学を受けるのですか。

**三原** 30人くらいです。クラスで5人くらいです。

**古川** 学校の勉強は何かしていましたか。

**三原** していませんでした。SEGの勉強で十分でした。

**丸山** 高1までは毎日クラシックバレエの練習に没頭していましたが、英語は海外でレッスンを受けたり公演したりする際に必要ですし、文理のどちらに進むにしても英語はそれなりに必要だろうと考えていたため、バレエ漬けの中でも英語は勉強するようにしていました。しかし、それ以外の教科は高2になってから手をつけ始めたと思っています。高2以後は、頻繁に行われる学校のイベントなどは思い切り楽しんだものの、それ以外の時間は、睡眠時間をかなり削って勉強に時間をあてるようにしていました。お世辞ではなくSEGの授業が本当に楽しかったため、早くSEGの授業の日がきてほしいと毎日思いながら過ごしていました。高2、高3は睡眠時間をはじめとしてかなり個人の時間を犠牲にした感じがあります。

---

## モチベーションの低下時は SEGの自習室で気合を入れた

---

**古川** 受験にあたって苦労したことや、ストレス解消のためにやっていたことがあれば教えてください。

**川村** 苦労したのはモチベーションの維持です。気持ちの

浮き沈みが激しくて、自粛期間中は集中できていたのに、夏休みになると気が抜けてしまうといったことを、ずっとくり返していました。勉強へのモチベーションをどうコントロールするかはかなり苦労していた感じです。

**古川** モチベーションが下がったときには、どんなことをしていましたか。

**川村** そういときは無理やり朝早く起きて、SEGの自習室に来て、そのまま帰らずに最後の時間まで勉強して、帰ったらすぐ寝るように、身体に言い聞かせていました。

**三原** 私は、モチベーションの維持にそれほど苦労したことはなかったのですが、つらかったのは成績が上がらなかったことです。数学の成績が本当に伸びず、テストゼミでも1桁しかとれなかったときに、どうしようかな……と悩んだ程度で、それほど大変だったことは思い浮かびません。とにかく勉強時間をたくさん取れるように、前向きに頑張っていた感じです。

**丸山** 私はテストゼミが大変でした。1週間に3科目あり、テストを受けては結果が出るという繰り返しで、しかも結果は数字で出るため、メンタルに大きく影響して落ち込んだこともありました。そんなときは、SEGの面談などで、先生方から悪い結果をポジティブに捉えられるような励ましの言葉をかけていただいたり、互いに高め合えるSEGの友人と話したりすることで、前向きな気持ちを取り戻すようにしていました。最後の方は、気合でやってやろうと勉強していたような感じです。

**古川** やはり受験も最後は気合ですかね(笑)。

---

## 模試の判定はあまり気にしないこと 入った大学を母校と考えよう

---

**古川** みなさんの学年は、高2のときに共通テストに記述問題が入るとか、英語の資格試験が必須になるなどとアナウンスされ、しかもそれらが受験直前に中止になるなど、かなり混乱したと思います。英語の資格試験を準備したかどうか、その後、中止と分かってどう思ったかなどについて聞かせてください。

**川村** 資格試験は高1のときに英検<sup>®</sup>の準1級を取って以

降は、一切触れていません。高2でその話が出たときにも、とりあえず一度とっているから考えないでおこうと思っていました(笑)。とはいえ、高校ではかなり準備していましたから、中止になると決まったときは、そうした準備に費やした時間が無駄になったことが一番ショックでした。

**三原** 私も高2で準1級を取ってからは何も受けていませんが、川村さんと同じようになり時間をかけて、申込書類を準備していました。ただ、資格試験対策にそんなに時間をかけられないとは思っていたため、私としては、共通テスト1本勝負になったことはありがたかったです。

**丸山** 私も高2で準1級を取りました。その準備のために単語帳をたくさんやり、高2のその時点までに単語力をつけられたことは、受験勉強の役に立ったと思っています。それ以後は特に何の対策もしなかったため、中止の影響はほとんど受けていません。

**古川** 模擬試験の結果はどうでしたか。合格判定が出ていて安心して受けられたのか、それともギリギリだったけれども無事受かったのか、どちらだったのでしょうか。

**川村** 医科歯科は第1志望ではなかったため、正確な判定は医科歯科では出ていません。第1志望は慶應で、ずっとA判定が出ていたのですが、それでも落ちてしまったので何とも言えません(笑)。

**古川** 入ったところが母校だと考えるようにすることですね。いつだって隣の芝生は青く見えますから(笑)。

**三原** 私はもともと国公立志望で、旭川医科が筑波を第1志望にしており、志望校の欄に順天堂を含めた私学を書いたことがないため、判定がどうだったのかは分かりません。ただ、筑波はD判定かE判定、旭川医科もC判定しか出たことがないため、たとえ順天堂を書いていたとしても、DかEだったのではないかと考えています。

**丸山** 私も、間違えて書いてしまった歯学部ではA判定でしたが、医学部でA判定やB判定を取ったことは一度もありません。9月に受けた模試で生物の成績が非常に悪かったため、ラストスパートで生物の勉強に時間を割いて、成績をグーッと上げた感じです。生物は直前まで伸びる科目だと思っていたからです。

**古川** ちなみに、日医は第1志望だったのですか。

**丸山** 特に明確な第1志望を定めていたわけではありませ

ん。ただ、私大専願だったため、順天堂、日医、慈恵会を目指して頑張ろうという、よくある志望パターンで勉強していました。

**古川** 医学部は受かったところに行くのがいいと思います。どの大学を出ても国家資格は同じですからね。

---

## 友人を作るために 自主的に大学に通う

---

**古川** みなさんは無事に医学部に入られたわけですが、コロナ禍の現在、どれくらいの授業が行われており、部活やサークルをどうしているかなど、具体的な大学生活について教えてください。

**川村** 対面かオンラインかは、その時々での感染状況で変わってきます。今までは、半分以上がオンラインで、半分以下が対面という感じでした。部活とサークルも一切禁止になっていましたが、11月1日にオンライン授業が対面授業に切り替わり、そのタイミングに合わせて部活やサークル活動が始まる感じです。救急救命を勉強するサークルに入っていますが、これまでずっとZoomで活動していましたから、まだ友人ができるような活動は行えていません。

**三原** 順天堂の場合、4月からずっと週3回は対面、週2回がオンラインになっており、週3回のうち2日は化学実習と生物実習をやっています。部活は今週くらいから始まっていますが、私はどこにも入っていないため、何もしていません。

**丸山** 日医は割と対面授業を行っているようで、1年生は一応4月から、対面でもオンラインでもどちらでも選択できるように、ハイブリッド授業が進められています。しかし、みんな友人を作りたいと思っているため、自主的に大学に来ている学生が多いと思います。私もずっとほぼ毎日、月～金まで大学に行っていますし、11月から、1年生だけ対面授業が義務化されました。2年生以上は義務ではありません。部活に関してはまだ誰も入部できていないため、もし活動再開となっても、もう一度新歓からやり直しということになるだろうと思っています。

**古川** 医学部に入って見て、想像と違ったというようなことがあれば、教えてください。

**川村** コロナが収束したら2年生からは毎日大学に通って、たくさん実習をして……と想像していたのですが、入学して最初のガイダンスのときに「医科歯科ではコロナ後も、オンラインを活用していきます」と(笑)。思い描いていた医学部生活とはずいぶん違うんだということが、一番想像とかけ離れていました。

**古川** 医師は、基礎知識を入れたり研究したりすることも重要ですが、一方で直接人間と話をし、人間と付き合っていく職業でもあります。今の医療は、病名が的確なら薬はよく効きますが、外れていればまったく効きません。患者のことはやはり患者が一番よく知っているため、医師はそれを丁寧に聞き出して、適切な治療をすることが重要です。その意味で、高いコミュニケーション能力がないと良い医師にはなれないわけで、オンラインばかりだと不安になるのは理解できます。

**三原** 私は逆に良い意味で想像とは違いました。医学部には、真面目でガリ勉みたい人が多いと思っていましたが、友人はかなり派手な感じの人が多くて(笑)。そうし





た人たちから良い影響を受けられるような大学生活を送っているため、とても良かったなあと思っています。

**丸山** 想像以上に宿題というか、課題が多いことに驚いています。英語、物理や数学といった主要科目ならまだ分かりますが、一般教養科目からもたくさん宿題が出るため、やっと終わったと思ってもまだ残っているという感じです。課題をこなすのはたしかに大変ではありますが、分からないことも多いため、それをみんなで協力して解決していくなど、良い意味でみんなとつながることもできました。ある意味、課題が多くて良かった点なのかもしれません。

## SEGで学んだおかげで 数学や物化は苦勞知らず

**古川** 医学部の授業を受けていて、SEGで学んだことが役立っているとか、逆にSEGでこんなことをやっておけば良かったということがあれば、教えてください。

**川村** 今、有機化学の授業を受けているのですが、そのままSEGの阿部先生に習った通りの内容で、聞かなくても分かるくらいです(笑)。役立つどころではなく、本当に助かっています。

**三原** 私は物理を受講していますが、公式の導出方法だとかSEGで全部習っていたため、苦勞せずに授業についていけています。化学の授業ではベンゼン環の非局在化などを扱っていますが、川村さんと同じように、まったく

苦勞していません。

**丸山** 私も2人と同じで、化学に関しては阿部先生の言った通り、そのまま同じことをやっている感じで、一緒にSEGに通っていた友人の多くも、4月、5月は「SEGそのままだ」と言っていました。英語ではかなり専門知識が入っている英文を読む機会が多いのですが、苦勞している人が多い中で私は多読を受講していたこともあり、特に苦しむこともありませんでした。多読をやっている良かったなと本当に思っています。数学に関しては、青木先生の授業が楽しすぎたこともあって、大学の数学はあまり面白くなく、変に難しいため、もう一度高2か高3に戻って、青木先生の授業を受けたいほどです(笑)。

**古川** 青木先生の授業に慣れていると、普通の授業を退屈に感じるようになるのかもしれませんがね(笑)。

## 広い世界を知るために アルバイトをしてみたい

**古川** 今、一番やりたいことは何でしょうか。

**川村** アルバイトです(笑)。今、SEGでチューターをやらせてもらっていますし、他のアルバイトもちょこちょこやっていますが、今までずっと勉強させてもらえる環境にいたため、知らないことがあまりに多すぎると感じています。社会経験を積むというか、社会について学べる環境を経験したいと思ってアルバイトにも力を入れています。

**古川** 医学部では上の学年になると、バイトができる時間

## 受験までの私の勉強法 **丸山 萌さん**

日本医科大学医学部 1年 (田園調布雙葉卒)

### 質問項目

- 繰り返し使っていたテキスト・問題集とその活用方法は？
- 過去問はいつ頃から何年分くらい解いた？
- 共通テスト対策としてしたことは？
- SEGの授業の予習・復習の仕方は？
- 学力が伸びたと手応えのあった時期とその勉強方法は？

科目	得意度指数	学習方法
数学	★★	高3の時はSEGのテキスト(青本、クリーム本、東大図形数学)を中心に勉強した。また、『4STEP』が学校の提出課題だったため、その問題を解くことで基礎力が強化できた。
英語	★★★★	SEGで借りた本をひたすら読んでいた。高2までは英検®に向けての勉強や文法の演習もしていた。
化学	★★★★	SEGの授業ノート、テキスト、テストゼミを中心に勉強した。高2の時は『セミナー』を定期試験に向けて解いた。また、直前期には間違えたところや苦手なところをミスノートにまとめていた。
生物	★★	『大森徹の最強講義117講』と資料集で生命現象の流れを掴み、細かい知識を学んだ。学校の進度がかなり遅かったということもあり、直前期の勉強時間は7割程度生物にあてていた。



がそんなにとれませんから、今のうちに経験しておく方がいいのかもしれない。

**三原** 私は部活と海外旅行をしたいと思っています。中高6年間ともに部活をやったことがないため、上下関係の厳しさとかを教えてくださいたいのと、海外旅行は卒業してからだとあまり行ける機会がなくなってしまうため、学生のうちに行っておきたいと思います。

**古川** 上下関係の厳しさなら、やはり体育会系になりますか。ただ、医学部自体がほとんど体育会系みたいなもので、卒業してからも年度で序列がついて、先輩後輩の関係はかなりありますよ。基本的に医者は体力勝負という面がありますから、体を鍛えておくのもいいかもしれません。

**丸山** 私もアルバイトや部活はしたいと思っています。今もアルバイトはしていますが、2人と同じく、もっと自分の視野を広げたいと思っています。私は小さい頃からかなり狭い世界で育ってきて、人生経験というか社会経験というものがかなり浅い気がしています。このまま医学部しか知らないまま卒業すると、そういう経験もできないため、もう少し社会と触れ合いたいと思っています。

---

## 医学部に入って初めて 女性医師の大変さを知った

---

**古川** 少し前に、東京医科大学で女子学生への差別がありました。医療現場ではどうしても当直が必要で、現実問題として当直には男性か独身の女性が多くなり、子育て中の女性医師は多少同僚に仕事をお願いしないといけない部分が出てくるからです。みなさんは女性ですし、将来医師になる者として、働き方改革の問題や、女性の医師が働きやすい環境というものをごどのように考えていますか。

**川村** 私の身近な人たちを見渡しても、女性の医師で子どもを産んでいる人は、実際には母しか知りません(笑)。医師の仕事に打ち込んでいらっしゃる方も多いのではないかと想像しています。子どもが生まれてから補助するような体制ができたとしても、妊娠している10ヶ月近くは働くわけにはいかないため、どうしても完全に男女対等にするのは無理ではないかなと、個人的には思っています。

**古川** 現在の医療制度では、専門医まで取らなければならず、専門医を取ってからなら休職してもいいのですが、その前に休職してしまうと、いろいろ不都合なことも起きてしまいますからね。

**丸山** 私自身は、何かを極めたいと思って医師になった部分があるため、離職というか、一時期でも医療の現場から離れるということが、自分にとって将来のデメリットになることを考えると、とても不安な気持ちにもなります。ただ、家庭も持ちたいと思っていますから、揺れ動いているのが正直なところですが……。

**三原** 私は2人のように自分の周りに医師がいる環境ではなかったため、実際の医師の仕事や、女性医師の置かれている状況を知る機会があまりないまま入学しました。そのため、医学部に入ってから、女性が医師を続けることがどれだけ大変なことを初めて痛感することになりました。私は、子どもも産みたいし、仕事もやりたいと思って医学部を志望したのですが、入学後にいろいろなお話を聞いていると、なかなかそういうふうにはいかないことが分

かってきました。もし、入学前にそのことを知っていたら、人を救いたいという気持ちだけで医学部を選択する前に、もう少し考えることがあったのではないかと、後輩には伝えたいと思います。

**古川** それをあまり考えすぎても、じゃあやめようかということになりかねないですからね。実際、今の制度だと親に子どもの面倒を見るのを手伝ってもらえる環境にないと、なかなか厳しいですね。

---

### 臨床医として働きながら いろいろな道を探りたい

---

**古川** 将来はどんな医師になりたいのかお聞きしたいと思います。現場に出て目の前の患者を助けることはもちろんですが、研究を通じて全体の医療水準を上げるような働き方もありますし、医療機器の開発に従事することもできます。いかがでしょうか。

**川村** 研究か臨床かでいえば、以前からずっと臨床に行きたいと思っています。臨床で働きたいということ以外には、具体的な将来のビジョンは見えていませんが、高校の頃から

生命倫理系の安楽死の問題や、出生前診断の問題などに興味があり関連する本も読んできたため、個人的には、大学の間にそれらのテーマをもう少し深く掘り下げて勉強したいと思っています。

**古川** 安楽死の問題はなかなかきれいな事ではいかず、介護の現場や、老人施設の現場の状況を知ること大切でしょうね。医療の発達のおかげで寿命が伸びすぎて、死ぬ時期を伸ばすことが、本当に幸せなのか、本人にも家族にも分からないのが実情です。とても難しい問題だと思います。医療費の問題も関わってきますね。

**三原** 将来は具体的には決めていませんが、ずっと臨床の医師としてやっていきたいという思いの他に、もともと障害を持っている人や高齢者などの福祉の方面に興味があることや、厚労省の医官として働くという道にも興味があることから、これからいろいろなキャリアを探していきたいと思っています。

**古川** 医官は非常に少ないため、かなり忙しいと聞いています。それなりにやりがいのある仕事が回ってくる一方で、残業も多く、その割には給料も低いという話のようです(笑)。しかし、絶対に必要な人材ですから、ぜひとも考えてみてください。



**丸山** 私も同じく臨床の医師を目指しています。具体的な診療科は決めてはいませんが、将来的には何か専門を見つけ、その部分を極めていけたらいいなと思っています。

---

## 自分に合った先生を見つけて 力を伸ばすことができるSEG

---

**古川** 最後に、これからSEGに入ろうかなと考えている方や、子どもをSEGに入れようかなと思っている保護者の方向けに、SEGをこう利用すると良いよ、というようなことがあれば教えてください。

**川村** テキストに関して言えばSEGは多すぎないことが大きなメリットだと思っています。あれもこれもあって何をやればいいのか分からないという状態になりにくいからです。厳選された内容を与えられ、それを自分のやりたい分だけ、やりたいように勉強できるという環境が、個人的にモチベーションを高めることにつながり、かつ楽しい時間にもなりました。SEGは、思っている以上に勉強が楽しめる環境だということは強調してもいいと思っています。

**三原** 私はSEGで、受験に求められることのすべてを教わったと言っても過言ではないと思っており、選択肢に入っているのであれば、ぜひSEGに入ってほしいと思います。SEGは、宿題を強制して、無理やりらせる苦行みたいなことは一切なく(笑)、自主性を大事にしてくれます。そのためのテキストもとても考えられて作られているため、受験勉強をするにはベストな場所だと感じています。

**丸山** SEGには科目ごとにさまざまなタイプの先生がいらっしゃる、講習や授業などを受けることで自分の好きな先生を見つけられます。これはとても恵まれていると思います。言い方は悪いですが、私はある先生の信者になっていて(笑)、仲の良い友人は私とは違う先生の信者になっているといった感じです。大学受験という人生の一大イベントで、科目ごとに「この先生についていこう」と思える先生を見つけられるというのは他の塾では聞いたことがありませんし、個人的にはそういう先生につけたことが一番幸せでした。塾の雰囲気もとても良く、強く勧めたいです。

**古川** 確かに導いてくれる先生はたくさんの方がいいですね。本日は、いろいろと興味深いお話が聞けて、楽しいひとときでした。

